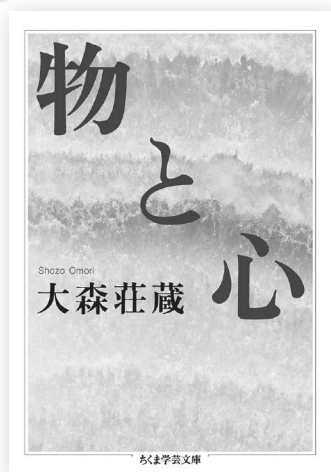


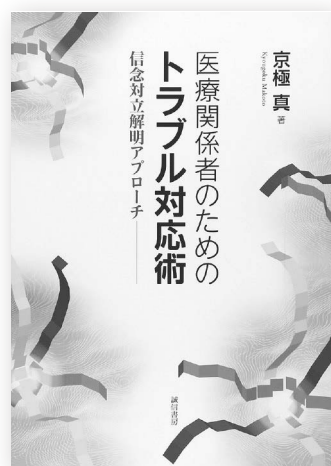
今月の特集関連本 ⑦

**物と心**

大森莊蔵＝著

本体 1,400 円＋税／A6 判・480 頁／筑摩書房／2015

本特集ご執筆の野家啓一先生 (p.556) の“激アツ論文”を収載した、大森哲学の神髓とも言える名著。現象の背後に実在を想定する二元論の仮構を否定し、自らが見て触れて感じている現実世界にどっしり足をつけ、それを超越しているかの如きものをどう捉えたらよいのか、を問い進めてゆく。独自の「立ち現われ一元論」のエッセンスが詰まっている。

**医療関係者のためのトラブル対応術****信念対立説明アプローチ**

京極 真＝著

本体 2,000 円＋税／A5 判・162 頁／誠信書房／2014

本特集ご執筆の京極先生 (p.560) が開発した「信念対立説明アプローチ」実践本の第 2 弾。己の信念を疑うことなく強硬に主張する当事者同士の、不毛な争いである「信念対立」を解きほぐす。医療現場で頻出する対立ケースを取り上げ、説明する手法を示す。医療領域別の研究動向や、本理論の構造を根本的に理解するためのエッセンスも紹介。京極先生の YouTube チャンネルでも解説している(「信念対立説明アプローチの基本中の基本」「信念対立ってどんな問題?【信念対立説明アプローチ入門】」「信念対立説明と 3 つの問い」)。

**作業で創るエビデンス****作業療法士のための研究法の学びかた**

友利幸之介、京極 真、竹林 崇＝執筆

長山洋史＝執筆協力

本体 4,000 円＋税／B5 判・336 頁／医学書院／2019

京極先生の作業療法士としての共著本。根拠に基づいた作業療法実践(EBOT)を広めるためには、現場で介入する臨床家や、養成校学生に教授する教育者が、まず、研究の使いかたを理解する必要がある。本書は、エビデンスの作りかたと使いかたをテーマに、最新の研究を含め、著者らが実際に行った研究をもとに、なぜこの方法を用いたのかという思考過程と実際の活用方法を紹介する。また、初学者が研究活動を身近に感じてもらえるよう、各研究法の概要を示したマンガを折々に挿入している。